

議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和3年2月3日（水）	
招集（開催）場 所	岩美町役場 全員協議会室	
出 席 委 員	田中克美委員長、寺垣智章副委員長、橋本恒委員、升井祐子委員、森田洋子委員、杉村宏委員、宮本純一委員、川口耕司委員、澤治樹委員、柳正敏委員（副議長）	
欠 席 委 員	吉田保雄委員	
議 長 の 出 席	あり 足立義明議長	
職 務 出 席 者	鈴木議会事務局長	
傍 聴 者	なし	
開 会	10時00分	
記 録 者	議会事務局 中島書記	
調 査 事 項	別紙日程表のとおり	
協 議 の 経 過		
日 程	発 言 者	内 容
開会	田中委員長	*起立、礼 始める。 議長、あいさつをお願いする。
	足立議長	進行してくれ。
協議事項(1)	田中委員長	協議事項(1)町民との意見交換会について、私が配った資料を見ていただいて、これまで開催した意見交換会について皆の意見を聞きたい。2回行ったが少なくとも第一弾の時期としてはもう一回行いたいと思っている。2月末から3月定例会が始まる前までに開催したい。町民全体に呼び掛けて、もう少し広い中央公民館のホールを会場にして開催したい。会の形式についてだが、これまでの2回は対面型だったが議員全員が対話に参加できる、住民側から言えば議員一人ひとりと対話ができるグループ形式にしてはどうかと。実は岩美まちづくりの会との意見交換会の際にもその形式を提案したが、すでにスタイルを決めておられたので変更はできなかった。次の時にはそのスタイルではどうかと思っている。グループ形式で12人の議員を一組3人の4組に分けて4テーブルです。色々な形式があるが、ワールドカフェ方式だと途中でテーブルのメンバーを代える。例えば2時間する時にずっと固定ではなくて、途中でメンバーが代わることもあるようだ。もう少し広く研究したいと思うが、いずれにしても議員全員と参加者が対話できる方式にしてはどうかと。町民全体に呼びかけて行なう意見交換会を1回は開催したいと思うが、この点について皆の意見を伺う。
	杉村委員	2回意見交換会を行なって参加者からいくつかの意見をいただいた。「自治会長会が住民の声を聞いたというアリバイ

		作りに使われた。意味がなかった。」と参加した何人もから聞いたし、「話を聞いていても議会を変えようとする切迫感がない、現実には少しも前へ進もうとしていない。」という声も聞いた。そのような参加者からの意見をいただき、以前にも申し上げたが、町民に示す内容を持たないまま意見交換を行っても意味がない。今、議会改革の実績としては、一般質問の生中継やYouTubeでの視聴ぐらいだ。提案されている意見交換会をしたとしても、また参加者は自治会長や岩美まちづくりの会の方々が述べられたことを意見として言われるのではないかと思う。議会側がこのような内容で、この件については意見が分かれているんだ、この件についてはやろうとは考えてないなどのしっかりとしたある程度のもんを持たなければ、意見交換会に向かう段になっていないと以前にも申し上げた。私は開催すべきではないと表明する。以上だ。
	田中委員長	他はどうか。
	足立議長	東部4町の他町の状況を少し報告する。新聞紙上でにぎわっている智頭町は、この件があったからだと思えるべきだが、全集落を委員会がまわっている。若桜町は以前から全集落に出向き議会との意見交換会を開いている。八頭町は4月に選挙があるので今任期中には具体的な行動はまだとてないが、議会内での話し合いがされているということだ。これが他町村の実態のようだ。以上だ。
	杉村委員	委員長、ご存知であれば議長に伺いたいがいかが。
	田中委員長	どうぞ。
	杉村委員	智頭の集会に参加したが、議会からの説明はあったがそれは報酬審議会で決定がなされたのでその通りにするというだけで、なぜ5万円上げるのかなど内容の説明がなかったことに非常に不満というか納得がいかないという趣旨の発言をされた方がおられた。そのことを智頭町民も一番知りたいと思う。集落をまわる時にそういった額を上げる根拠や理由などを説明されているのかご存知なら教えていただきたい。
	足立議長	正確性に欠けるかも知れないが、昨年（令和2年）の4月から報酬の件だけでなく町民との意見交換会をする予定だったみたいだ。ただこのコロナ禍で意見交換会を行なうのはいかなものかという意見が多数出て、昨年は取りやめたというのが実情だ。話を聞いた内容では、もともとは報酬を上げるというだけの意見交換会ではなく、あらゆることについての町民との意見交換会を各集落に出かけて行なうというのが発端のようで、その中で議会側から報酬の現状を説明するというレベルしか申し訳ないが私は聞いていない。
	田中委員長	杉村委員から意味がないということに通じる意見を参加者から聞いたということだが、他に聞いたり、発言を聞かれて

		意見のある委員はないか。
	澤委員	このコロナ禍の中にあり、町民や臨職の方で苦しんでいる方々がおられる。細かい数字で言えば、町内では持続化給付金が221件出ている。それから支え合いクーポンなども行っている。そのような事実を目を向けずに、将来どうなるか分からない議会の報酬に関わることをやっているのは順番が違うのではないかと言われた。(選挙に)出やすい環境かもしれないが、現状でもどうなるか分からないし、変わってもどうなるか分からない。その未確定なことに対して目を向けるより先に、町民が困っていることに目を向けるべきだと言われた。確かにその通りだと思う。今日の新聞に雇止めや解雇が360何件とあった。鳥取県の数字だったが、あれ以上に雇止めや休業は町内でたくさんある。その現実に対してどうやったらいいか目を向けずに、出やすい環境かどうか未定な部分に目を向けてするのは私自身も疑問を感じた。
	田中委員長	出やすいとはどういうことか。
	澤委員	選挙に出やすい環境づくりということでこの委員会で話が出たと思う。
	田中委員長	立候補しやすいという意味か。
	澤委員	来年選挙があるが、議論するなら選挙の結果によって即立ち上げた方がいいと思う。町民の立場からすると、今困っている町民のことはしてくれないのに、未定の部分に目を向けているのは違うのではないかと。まずは現状の事実を解決することが先ではないかということだ。同感だ。
	橋本委員	自治会長会に参加された2名の方から話を伺った。一人の方は、議会との意見交換会が今まであることを知らなかったし、初めて自治会の役になった方だった。「このような会があり、意見が聞けてよかった。」とおっしゃっていた。もう一人の方は、「報酬のことは少ないなあ。直すのはやぶさかではないと思うが、ただ、自治会長会の持っていく方はよく分からなかった、何をしたい会なのか伝わってこない会だ。」と言っていた。「おそらく報酬を上げたいのだろうがそのことがオブラートに包まれていたし、かといって議会の活動を細かく教えてもらえるわけでもないし、ただ意見を聞くことに終始していた。もう少し明確に目的を示して、資料も議会の資料ではなく、どのような活動をしているか具体的に分かるようなものにしてもらえたらもっと分かるのに。」とおっしゃられていた。以上だ。
	柳副議長	橋本委員以外の意見は、どちらかというとマイナス的な意見だ。住民からの批判的な意見は好機として捉えるべきだと思うが。ただ、マイナス的な要素を捉えて2回実施した意見交換会が無駄だったのかと言えばそうではないと思う。自治会長会や岩美まちづくりの会と初めに意見交換会を持たせて

		<p>いただいたのは、出始めでどのような団体を選択するかにあつては当然の相手先だと思う。今後どのような形で展開するかは、この特別委員会で話せばいいと思う。きょう報酬のことについてはある程度かたをつけると思うが、議会は決して報酬を上げるためだけにこの特別委員会を設置しているわけではないということは皆がきちんと確認していると思うが、コロナがでる前から報酬を含めた議会改革については議論の対象になっていて、決してコロナ禍にあつて住民生活をおざなりにして、議会の改革だけを率先するわけではないということをお伝えしないといけない。</p> <p>これはコロナの前から始まった議論であつたし、議員活動をどのように充実させるかさんざん話し合ってきた。多くの議員がある程度の報酬のアップを望み、それは議員活動を充実させるために必要だという意見を述べているということも再認識すべきだと思う。</p> <p>もう一つは岩美町議会は、コロナ対策事業にしても執行部とともに両輪となつて対応している。これだけの大きなコロナ対策事業に取り組む中では、国からの財政支援がないときれほどに終わってしまうということで、一次補正、二次補正、三次補正という形できちんと取り組んでいるということも住民にそれぞれの議員が会った時にきちんと話すべきだと思う。10万、100万の財源なら単町で事業を行なうことができるかも知れないが、やはり億からのお金が必要な場合、国からの財源が元になる。岩美町は一次から三次補正を待って段階的にきちんとした事業に取り組んでいるということをお、私が話した自治会長会の方は言っておられた。また「継続するなら、具体的なテーマを持ってやっていただきたい。前回の意見交換会は初めてだから、きちんとした成果があがるということは議会も期待してなかったかもしれないが、我々も期待してなかった、今までの議会というものが少し上のポジションにあるというイメージは払拭された感じをもった。」ということだった。</p> <p>継続するなら杉村委員も言われたが、具体的なテーマをもってやっていけばいい。評価は、悪い評価もあつたがほとんどがいい評価だった。これから議会活動の取組についてやろうとする中で、私はいい評価だと思つたしもっともっと努力しないといけないという思いになつた。</p>
	橋本委員	<p>私の発言が否定的な意見だと捉えられたなら説明の仕方が悪かつたが、むしろ報酬を上げることもよいと言つておられたし、その会自体もよかつたと。ただ、もつていき方がちよつとオブラートに包まれすぎていたと。どうせ報酬を上げてほしいんでしょ、その上で議会改革もしているという話でしょと言つていた。そういうことがストレートに分かる資料</p>

		と議会活動が分かるもので開催した方がより伝わるのではという意見で、決して悪い評価ではなかった。説明が悪かったと思う。
	柳副議長	誰の意見が否定的だとかそういうことではなくて、3名程度だったが私はいい評価を受けたということ報告したかっただけだ。
	田中委員長	他は何か聞いているか。
	森田委員	自治会長会には参加されていない女性団体からの意見だ。田中委員長が地元の総会でこの議会活動の在り方検討特別委員会や意見交換会のことを話され、そこに出席していた婦人団体の会長からどういうことだと尋ねられたので説明させていただいた。すごくいいことだと話された中で、色々な会に議員には参加してもらい各団体の意見を聞いてほしいということや、議員の報告会を各地区でもってはどうかとの意見があった。今まではどちらかという自分達がお願いしていくという立場でいたが、積極的に話をしてくださり親近感がわいた。さっそく3月の総会に声をかけていただいた。しっかりした内容をもって参加しないといけないと思ったし、杉村委員も言われたが、何か議題を決めて意見交換をしていかなないとなかなか前に進めないのではないかと私自身は感じたのでその様にさせていただけたらと思う。以上だ。
	澤委員	非常に厳しい意見があった。智頭町や八頭町が報酬のことで騒がせているし、全国的に議員のなり手が少ないから報酬を上げないといけないと報道されている。「それは分かるが、このコロナで住民が困っている時に報酬を上げるという話に万が一なった場合に、あなた方は報酬を上げるのに賛成したと意思表示をして次の選挙に出ることができるのか、その覚悟がないといけないのではないか。」と言われた。そのようなことも投票の材料にされる有権者もあるのだと思った。その覚悟がないと上げることはできないということと言われた。
	田中委員長	それはそうだろう。言われるまでもない。
	澤委員	立候補した時に表明できる、極端に言えばポスターにでも書ける覚悟はあるのかと言われた。
	田中委員長	別に報酬に限らない。
	澤委員	まあ黙って。
	足立議長	1対1ではないだけ。
	澤委員	そういう意見があったということだ。
	田中委員長	他には。
	升井委員	森田委員の言われたことに似ているが、定例会が終わった後に校区ごとでもいいので議会報告会をしたらどうかという提案を受けた。

	田中委員長	参加した方の声を何か聞いているか。
	川口委員	会合で自治会長会に参加した方と一緒に、議会が進めて意見交換会をしていると皆の集まりの中で言っていた。議会としても集落や地域に出かけたいということを考えているので、集落でそのようなことになったり、何かあれば対応できると思うと言っていた方がおられた。そのようなことを議会として進めているということをしっかり聞いていただいていると思っている。
	田中委員長	宮本委員、何か聞いているか。
	宮本委員	後日の意見は聞いてないが、この会に出席するにあたり、何が聞きたいのかということから色々話しをした地区の方がおられ、おおむね分かったと、議員報酬のことがポイントだなと言っておられた。
	寺垣委員	この度の意見交換会についての意見は特にいただいてないが、報告会等はした方がいいと言われる。
	田中委員長	<p>開会前にある自治会長から以前にした時はアライバイに使われたと言われた。その人も含めて終わった後に次もやってくれと言われた。第2弾も予定しているので。会に参加していた方の事前に聞いていた受け止め方や会での発言から受けた印象は、やはり会を重ねないといけないというものだ。</p> <p>議会の活動そのものに対してもっと厳しい意見が出るかと思ったが、経過報告や付けていた色々な資料をよく見ていただいたので出なかったのだろうと思う。特に岩美まちづくりの会には事前に配っていたし。人によってはテンポが遅いという人もあるだろうが、止まっていたり後ろを向いたりしているものではないと受け止めてもらえたのではないかと考えている。もっとテーマを絞って意見交換をすれば、もっと具体的に厳しいことも含めて出てくるだろうと思う。以前の議会改革に取り組んでいたころの議会と違って、今の我々12人はそういうこともきちんと受け止めていける議会に、少なくともそういう姿勢になっていると確信している。至らない所はたくさんあるが、そこからさらに高みをめざしていくという姿勢が一番大事だと思っている。そこをどれだけ理解してもらえるかがポイントだろうと思っている。色々想定外のこともあるかもしれないが、意見を聞くこと、我々一人ひとりの意見も含めてお答えをしていくことはこれからも重ねていきたいし、いくべきだと思っている。次の意見交換会を行ないたいという提案についてはどうか。</p>
	柳副議長	(意見交換会を)するしないは皆で決定すべきだが、するという決定がなされた時に提案されている分散して3班か4班に分けてすることに少し否定的な意見を持っている。班ごとに岩美町議会としての共通の認識を話せばいいが、どうしても議員それぞれの価値観があるので、同じ質問に対してこ

		<p>ちらのテーブルではこのような答えが出たとか、持論がかなり出てくるテーブルがあったりするのではないかと。それは議員活動としてすればいいし、行政懇談会も分散はしない。議会全体として町民と意見交換する場合は、住民が一セット、議会が一セットの形でしないといけないと思う。持論を述べたいなら個人の議員活動で取り組むべきだと思う。私の意見を初めに述べさせていただいた。以上だ。</p>
	田中委員長	<p>他はどうか。</p>
	足立議長	<p>ちょっとよいか。きょう、こうして特別委員会を開いたら各議員が前回の意見交換会の意見を聞いてきて、色々な意見が出ている。だからきょうがある。意見交換会を2回してなかったらこのような意見は出てないと思う。副議長のような意見もあるし、澤委員のようにはっきり意見を言った方もいる。だから皆で話をして次回はどうしようこうしようという意見を出してほしいと思う。12名が同じ意見ということはこの場ではあり得ないと思っている。きょうは皆がいい意見を出したと思っている。しかしこれからどう進むのか、副議長が今言われたように議会としてまとめた意見で出るのか、12通りの意見を持って意見交換会をするのか、私はそれもいいと思っている。委員長、その辺も含めてどう進めてどうまとめていくか皆で決めて、ある程度の筋書きをしておかないといけないのも事実だと思う。ただ、この2回の意見交換会で本当に今までにないようなそれぞれの意見を聞いてこられたと私は感じている。これからの特別委員会の進め方を決めるにはいい時期だと思うが。</p>
	田中委員長	<p>今の議長の意見も併せて考えていただいて、意見交換会を開催することとその形式についてはどうか。</p>
	升井委員	<p>意見交換会は定期的にすべきだと思うが、他の方の意見も聞きたいし、小さな意見とかつぶやきとかも聞き逃したくないので、グループに分かれるよりは議会側と町民の皆様側というように大きく分かれた方がいい。全員の意見が聞きたいのでグループには分かれないう方がいい。</p>
	田中委員長	<p>議員ではなく参加した住民側の意見を聞きたいということだな。私は対話したいし、対話することが大事ではないかと思っている。最初に説明したが、ワールドカフェ方式というのを以前滝川市議会がやっている。例えば議員が3人いて、1人だけ残して2回ぐらいそのメンバーが全員代わる。固定しない。参加する町民の方も他のテーブルに代わり、他の議員と対話できる。なかなか運営に技術は必要だが、文字通り意見交換ができる。公式見解だけでなく、それぞれのニュアンスをもった、さまざまな経験や色々な年齢の議員によって議会の議論がなされ、そういったものが表に出てくることも含めて生の議会を理解してほしい。その方がいいのではない</p>

		かと。公式ではなく外れたところでの話し合いもあるかもしれないがそれはやむを得ない。私もやったことがないのでどうなるか分からないが、恐れていても仕方ないと今のところは思っている。
	澤委員	小さく分かれることで心配するのは、統一されている議論に対する意見交換会ならよいが、議論に対して議会の中でまだ統一されていない。グループが小さくなると住民から出た意見を聞くだけになってしまう。答えようと思ったら、議会に統一の見解がないので個人の意見が出てくる心配がある。
	田中委員長	それは出てくるだろう。住民から質問されたら答えないといけない。ただし、なぜそうなのかという理由を述べないといけない。
	澤委員	個人の意見を出してもいいなら、小さいグループでも構わないと思うが。
	田中委員長	公式見解しか伺えないなら、参加する住民は魅力を感じないと思う。
	澤委員	それは分からない。
	田中委員長	魅力は感じないと思う。議会に電話して公式見解を聞けばいい。
	澤委員	それ（公式見解）に対する意見を言いたい人が出てくるかもしれない。
	田中委員長	言えばいいと思う。言ったら我々も一人ひとりが自分の思いを答えればいい。答える人によって公式見解のニュアンスが違ふかもしれないが、それはそれでいい。だって生身の人間だから。議会とはそもそもそのようなものだ。
	澤委員	自分の自由な意見が言えるのであれば、別に小さくても構わないと思うが。ただ、それが議会内の大勢の意見ではない場合でも言ってもいいのか。
	田中委員長	それは仕方がない。議会報告会は、聞いている自分の意見が言えないからものすごく窮屈だと思っている。例えば、議決された議案があって、それを報告してそれに反対する人がいる。反対した人が参加していても反対の理由などを言うことはできない。こんな窮屈なものはないと私は思っている。
	杉村委員	田中委員長が言われた議員と町民との意見交換会というのは、議会側は議会の公式見解ではなくて議員個人の意見を、参加される町民の方、例えば岩美まちづくりの会の公式見解ではなくて町民個人の意見を述べ、それに対してまた議員個人の意見を述べるというものだ。意見交換会というのはそこで何かを決議するわけではないので、個人個人の意見を交換するものだという認識でおられるのではないかと思うが、私もそうだと思っている。それと先ほど議会の公式見解を各議員は意見交換会の時に述べるべきだとの意見もあったが、そ

		<p>れはたぶん意見交換会ではないと認識されていると理解した。田中委員長の言われていることはとても矛盾している。というのは先ほども言ったが「意見交換会をする段階ではない。それは意見交換会をさせていただく相手先に大変失礼だ。」と言うと「そのことを意見交換会の時に言わないでくれ。相手方の団体に失礼だから。」と田中委員長はこの場で言われた。もう少し整理して言うと、「今意見交換会をする段階ではない、この項目にあってはしようと思う、この項目にあっては意見が半々なので皆の意見が聞きたい、この項目については反対が多いのでしょうとは思わない、といったような整理をした上でないと岩美まちづくりの会や自治会長会との意見交換会をする段階ではない。」と何回か前のこの委員会で言った。そのような意見を意見交換会のなかで言うてはいけないと（田中委員長は）言われた。つまり、各議員個人の意見を交換する会だと言いながら、結局は意見を言うてはいけないようなことになっているので大変矛盾している。</p>
	田中委員長	いや、私は・・・。
	杉村委員	皆の意見を聞いたらいいと思う。いちいち委員長がそれについて・・・
	田中委員長	それは杉村委員の「矛盾している」と言っている認識が違うから言おうとしている。それは事実だから皆の意見を聞いてくれというのはちょっと違うが、時間が無駄なのでやめるが、前提があつてそのように言った。前提抜きの議論をしてもらっても困る。
	川口委員	委員長が今提案している小グループに分かれてというのに私は賛成だ。意見交換会に参加する方は色々な意見を持って出てこられると思うが、小さいグループに分かれて話することは、自分の色々な気づきが出てきたり、人の話を聞いたりして「ああこうか、それなら私はこのような意見をもっている。」などの話ができるのではないかと思う。人を固定するとそのグループの話しか聞けないので、それをローテーションさせて一人だけ残す。その一人というか進行役がしっかりしてないと会自体が色々な方向にいきかねない。そのグループのリーダーが色々な意見を引き出したりする必要があると思うし、それには何かテーマも持たないといけないのではないかと思う。岩美町議会が抱えている課題の中の何点かについてでも。時間があればそのテーマ以外で思い当たることを話していくのも必要だと思う。参加された方については、小グループの方が参加して意見が言えたという満足感があるのかなと思う。
	田中委員長	追加だがグループの中で、参加した人と皆が意見を交わすことが大事な一つのポイントだと思っている。期歴とか色々な経験とか議員によってさまざまあるが、前向きにやろうと

		<p>している姿勢や思いを直接感じてもらえる、理解してもらえるというのが大事だと思っている。色々なことを知っていて何を言われても全部答えられる人もいるが、そうでない人がいてもその対話の中で熱意や姿勢を感じてもらい、理解してもらうことが大事だ。何人かが代表して議会のことを言うというのでは、まだまだ町民の皆に理解してもらうには足りない。やったことがないのでかけの部分もあるが、挑戦すること自体が、一つの我々の姿勢の表れとして町民に受け止めてもらえる。そういう要素もあると思っている。何回も言うが、公式見解だったら議会事務局に文書で回答してくれ、資料を見せてくれと言えはすむ話だ。宮本委員はどうか。</p>
	宮本委員	<p>開かれた議会を求めてこのような活動をしているので、住民と意見交換するのは当たり前だと思う。やり方について今議論している中で、何でもかんでも世間話をして意見交換して、我々はこれだけやっている、分かってほしいみたいなのではなくて・・・</p>
	田中委員長	<p>世間話ではなくテーマだが。</p>
	宮本委員	<p>いつも住民に「何が聞きたいのか」と言われるので、ある程度聞きたい課題を整理して、そこは押さえておいてあとはその他の部分でフリートークをすとか。やり方の問題だと思うのでやってもらったらいいと思う。小グループでも結構だ。(テーマが)統一されていればいい。全部フリートークだったら中身がない交流会になるのではないかと思う。</p>
	田中委員長	<p>テーマを決めておいて、例えば外れたことを参加者が言う場合にはコントロールしてもらえばいい。それは必要なことだ。それ(中身の無い会)は我々だけでなく参加者にとっても迷惑な話だ。</p>
	宮本委員	<p>迷惑だ、なぜ呼んだのかという話になる。</p>
	橋本委員	<p>私も小グループには賛成だ。川口委員も言われたが、全体会だと気後れして発言できない方もおられると思うので、細かくグループを分けるといことで発言を促せると思う。ただファシリテーター、会を仕切る人間がいなくて訳の分からない話になる。会の運営を考えると議員3人で一人がファシリテーターをするのは厳しいかなと。個別の運営の仕方はこれからだと思うが、必ず会をコントロールする人間がグループに一人は必要だと思う。</p>
	田中委員長	<p>この前の岩美まちづくりの会とのスタイルをそれで挑戦してみようという思いがあったので、事前に議長と相談して委員長を柱に3つのグループをつくらうと考えている。議論している時にコントロールする人が必要だが、メンバーが代わるので、その人は前の議論の内容も紹介できる役もしないといけない。そのようなこともあり各常任委員長や私を頭において組み分けを考えた。ただそういう技術を全く勉強もして</p>

		ないし実施もしてないので本当に挑戦だ。しかし挑戦しないことには先に進まない。
	森田委員	グループに分かれての意見交換会には賛成だが、グループごとに具体的なテーマを決めて、そこにいる議員はそれについての意見をある程度まとめて答えられるような状況をつかって臨むような感じがよい。グループごとに、例えば放映のこととかテーマを決めて意見交換する方がより具体的な意見を皆が発言するのではないかと思う。テーマを決めてもらわないと、話しづらいと色々な会に出て感じることもあるので、具体的にテーマを決めて意見交換会をした方がいいと思う。
休憩 再開	田中委員長	休憩する。 11時07分 休憩 再開する。 11時14分 再開
	田中委員長	休憩前に皆の意見を伺って、寺垣副委員長と話をした次の提案している時期に間に合うように意見交換会を開催するよう呼びかけたいと思う。グループは4つということで、議論しやすいようにテーマを絞って。テーマについては、議長も含めて我々に一任していただきたい。日にちと時間についても会場の都合もあるし、一任していただくことでまとめたいがよろしいか。
	皆	よい。
	杉村委員	その段階ではないということで私は反対する。
	澤委員	これには自治会長や岩美まちづくりの会も参加してよいのだな。
	田中委員長	よい。重なってもよい。
	澤委員	また同じ意見が出てくる。
	田中委員長	対話式なので参加する方の意味が違ってくると思う。意見交換会の2つ目だが、文書に目を通す時間がなかったかもしれないが、直接会の時にその場で耳にしている。この意見や要望を局長にお願いして別紙のようにまとめて文書にしてもらった。局長にまとめた観点ごとに整理してもらっている。さっきの議論の中にアライバイ作りにという話があったが、そのような意見を言われた参加者に向かって言うわけではないが、議会としてどう受け止めているのか、どう行動していくのかということをお返ししていきたいと思う。すぐできることもあるかもしれないし、担当常任委員会あるいは議会全体で取り組んでいく方向になる問題もあるだろう。いずれにしても議会としての考えをお返しするようにしたいと思う。出ている問題について、皆の率直な意見を聞かせてほしい。
	杉村委員	本日の段階では、一点だけ実施すべきだということを申し

		<p>上げさせていただく。本特別委員会のことがホームページに掲載されていないとか、常任委員会に出された資料は町民に出された資料だと思っているという発言もあったと思う。私は、今期の議会運営委員会に参加しており、その中でもこの意見と同じように各委員会の会議録や全協の会議録をホームページにあげるべきだとの意見を出しているが、未だにその議論は全く進んでいない。今回の意見交換会でこのようなことを私としては言われなくなかった。議会が公開されることは当然のことなので、私が一つ提案したいのは、本日の特別委員会と特別委員会の前身のような立場の議員報酬特別委員会の両方の会議録を事務的に可能ならば可及的速やかにホームページにあげて、議長が自治会長会の時に「見える議会に必ずするのでみてほしい。」と言われたが、そのことで一つでも分かるようにこの二つの特別委員会の会議録について本日この委員会で決定していただきたい。以上だ。</p>
	田中委員長	他はどうか。
	澤委員	技術的には可能なのか。
	鈴木議会事務局長	今議会のホームページに各常任委員会の行政視察の報告書を各年度分掲載している。特別委員会の会議録も同じように載せることは可能だ。技術的には問題はない。作成しているそのものを載せるということなら。
	宮本委員	一度、載せたことがあるのではないかな。ボーナスの皆の意見を。
	鈴木議会事務局長	はい。以前コロナ禍になった時に、議員の特別定額給付金を受け取ったことに対する対応の考え方についての議論を要約してホームページに載せたことがある。
	澤委員	載せた場合に何人が視聴したか分かるのか。
	田中委員長	それ自体は分からない。
	足立議長	ちょっといいか。規則的なことだが、全議員がいるのでこの場でよい悪いと言うつもりはないが、議運で協議したりする手続きはしなくてもよいのか。この場で決めて即実行ができるのか。局長。
	鈴木議会事務局長	この特別委員会は、本日欠席委員もいるが議員全員が構成員になっている。私は、ホームページの管理は基本的に議長に権限があると思っている。議長の諮問機関として議会運営委員会があるので、議会運営委員会で決まれば正式に決まったということになるだろうし、この特別委員会で決まって皆が了解したということで議会運営委員会までしなくてもということになれば、議長の判断でいいと理解している。
	足立議長	もう一ついいか。費用的なことや人的なこともあるので、議会の12人が了解したから次回からしようとかちょっとまってとか方向は決めていただいてもいいが、色々な問題が出

		てくることを頭においてほしい。議長の判断でと言う部分、判断を下すことは簡単だが、相談する部分が必ずついてくると思う。この場での判断ということなら私としてはルールとして議運に諮っていただき、その中でそういう方向でしてくれとなれば、先ほど言った費用の問題や人的にどうするのかなどあらゆることを詰める時間をもらいたいということをお祈りしておく。
	田中委員長	特別委員会の会議録をホームページに掲載する費用は関係ないな。
	足立議長	このようなことが進んでいくのもこのような場を持って、意見が出て、このような機会が設けられるからで、改革というかわかっていくということも事実だと分かってほしい。何回も言うが人的なこともついてくるので即実行はできないかもしれない。事務局ともよく相談せざるを得ないことなので。私の方からは議運に諮っていただくことをお願いする。
	田中委員長	吉田委員は欠席しているが全委員が出席しているので、議長に裁断をお願いしたい。
	足立議長	では、皆それでよいのか。ただし、言うように・・・
	柳副議長	ちょっとよいか。たまたまホームページの掲載ということになるが、基本的には特別委員会も常任委員会も示唆審査機関的な役割だから、このように新しいルールづくりとなれば議運のメンバーがいるからいいではなく、一度議運でこういった問題があるが、これは次に向かって取り入れるルール、システムだということを確認して進めた方がいいと思う。これに限らず。
	足立議長	今の意見を踏まえてだが、事務局とも協議する時間がほしいし、議運に任せてもらう時間的な余裕がほしいのでそのように回答を願う。
	田中委員長	意見交換会で出た意見を踏まえて、直ちにやるべきだという杉村委員の意見について、皆が異存はないと思うので特別委員会の意見としては、記録を継続して読んでもらえばどのように議論が発展し今の特別委員会になったかということがよりよく分かると思うので、前段の報酬特別委員会と議会の在り方検討特別委員会の記録を部分的に掲載できるものから掲載するというをきょうの特別委員会での意思として確認したいと思う。あと具体的にどのように進めていくかを含めて議長に委ねる。先ほどの意見で議長は議会運営委員会に諮問することになるわけだが、そのようなことでよろしいか。
	皆	よい。
	田中委員長	ではそのように進めたいと思う。各常任委員長、その他にこの問題はうちの委員会で議論したいというのがあれば。

	足立議長	無いようなので一つ。中央公民館に呼んでするのも結構だが、色々な意見が出た中で、9地区あるのでそこに出かけて行って意見交換会を持つのもっと詳細なものになると思うのでそれも検討してみて。
	田中委員長	川口委員長よいか。
	川口委員	具体的には出てなかったが、ある自治会長から介護保険に関して、たぶんその理事をしておられたと思うが、社会福祉協議会が行なっている居宅介護がかなり赤字になっていることを心配して私に相談があった。私も評議委員という立場もあるし、そのことも常任委員会の中で議題として取り組んでいただきたいという意見を聞いている。また委員会の中で今後の岩美町の介護保険に併せての問題、課題があるということ、今後に向けてどうあるべきかを研究してほしいと言われたので産業福祉常任委員会で提案させていただきたいと思っている。
	田中委員長	宮本委員長ないか。
	宮本委員長	今日のところは。
協議事項(2)	田中委員長	<p>他の方はよいか。出された意見やここには書かれていないが川口委員が言った介護問題、意見交換会の中での発言について再度そのような目でみてもらい、皆からの提案なり意見があれば事務局に寄せてもらって、次の機会に議論することがあるかもしれないし、そのようにすすめたいと思う。時間がだんだん迫っているのです。そういうことでいきたいと思う。それでは急いで申し訳ないが、2. 議案審議の進め方についてに入る。以前私が提案した執行部が提案予定の議案の審議の進め方について議論してきたが、できればこの点については本日決着をつけたいというのが一つだ。それと提案していた議案審議の進め方とは別の提案を行ないたい。私が出した資料の2. (2) に書いてあるが、執行部提案の施策や議案を前提に議会が意見を述べたり、審議するということがあったが、それとは別に、議会側が主体的に課題を決めてそれに関わって定期的に会議を開き研究・検討する。その過程で執行部にきてもらって聞き取りしたり、場合によっては意見交換会をする。我々としてはこうした活動で得られた成果を行政に対して提言する。意見交換会の中でもそういう政策的な活動を行なってほしいという意見もあったが、執行部側と議会側との双方向の活動になるようにというのが一つのポイントだ。</p> <p>町民の皆から町政や政策に係る意見を聞くということは、岩美町議会ではそのようなルールがないので、報酬の対象となる議員活動の時間から外している。新たに提案した活動では、個々の議員が町民から聞き取りしたり教えてもらったりしたことがこの研究課題につながることもあるし、課題を研</p>

		究している過程で、一人ひとりの議員が情報収集したり、聞き取りしたことを会議に反映させることもある。新たに提案した活動を岩美町議会の活動の仕組みとしてルール化することで、こうした活動が報酬の対象となる議員活動に位置付けられることになると思う。そういったことを先々の話として考えるならば、きょう新たに提案した活動についてこの特別委員会で議論、検討したいと思っている。繰り返しになるが、これはこれまで議論してきた議案審議の進め方の問題とは別個の問題なのでごっちゃにならないように理解していただきたい。きょう決着をつけたいと思っているのは、これまでの議案審議の進め方だ。私の方から提案した流れのことだが、前回の議論の中でおおむねこの提案の流れで了解を得た意見がほしい議員の半分だと思う。どうするか意見を述べてない方も何名かいる。
	澤委員	それを確認しよう。
	田中委員長	付け加えると、全部の議案ではなく重要議案についてだ。ただし、すべての議案について事前に質疑はしないということをはっきりしておきたい。説明を求めることはあるが、これまでのように上程までに質疑をすることはしない。ポイントは、しっかり審査するためにとことん説明を求めるということだ。 川口委員どうか。
	川口委員	それでよい。
	澤委員	流れを変えるか変えないかが第一に出てくると思う。私個人は今まで通りでいいと思っている。というのも、皆も承知だと思うが新聞沙汰になった北栄町のように言われかねない。色々な見解があるがあくまでも見解で違法ではない。事前の質疑ではなく自分が議決するための資料として聞き取る。決して審議しているという捉え方ではないので、従来通りの流れでいいと思う。
	田中委員長	前日も議論になったが、明文がないから違法ではないということはない。
	澤委員	それが私の考えだ。
	田中委員長	考えとかではなしに常識的に。
	澤委員	質疑するというのは聞くわけだ。自分が議決するために色々情報を得ないといけないからそれを聞き取るという捉えでいいのではないか。
	田中委員長	それはする。とことん説明を求める。それは大前提だ。
	澤委員	今までの流れで本会議前の常任委員会・・・。
	田中委員長	流れはそのままだ。重要案件については成案になるまでに、執行部も事前に住民や関係者の意見を聞いたりしている。その中に議会の意見も聞けというのを入れる。それをル

		ール化するというのが一つのポイントだ。議運の時は成案になっているので、それより前に議会には説明する。
	澤委員	事前の常任委員会や全協はあるということか。
	田中委員長	そうだ。ある。
	澤委員	要は中身のやり取りが質疑をしないということにするということだな。
	田中委員長	前も紹介したが八頭町は事前に何もしない。議案を上程して休憩してそこで常任委員会や全協をする。そこで細かく質疑もする。それならうちの方がまだいいと思っていた。上程してしまったら引っ込みがつかない。だから北栄町みたいになっちゃうのだが。まだ事前に質疑をして意見を言って質すべきところは質させてという岩美町の方がいいと昔の人は思っていたが、それは事前審査だということがある。だったら審査するための説明や判断するための情報を求めることをする。議運から本会議まで1週間あるが、その間、議会が受けた説明を踏まえてきちんと自分の考えを判断できるように、調査や研究する期間を持てるように議運の前に説明する流れにしている。違いは質疑をしないということだ。
	澤委員	中身的には質疑しない、聞き取るということか。
	田中委員長	質疑はしない。要するに質すことはしない。これはどのような意味だということはいしかり聞く。
	澤委員	今までも聞き取っていたつもりでいたが。
	田中委員長	今までの流れは変わらないが、中身が少し違ってくる。他の話になるが、北栄町の場合は議会の意見としては通らないと分かって出している。議会の中で事前の反対が強かった。そのような問題がある。岩美町のような流れにしないからというわけではない。八頭町が揉めたりするのは、事前に何もなくて、上程してから全協したり常任委員会したりしてそこで説明し質疑するからだと思っている。執行部側にとっても議会側にとっても、議案の内容をよくすることと事前審査にならないことをクリアすることを考えた流れにしている。
	柳副議長	きょう決着をつけたいという委員長の提案だが、個人的には決着はつけられない。ただ、現在の意見として、澤委員も言われたが今まで通りの常任委員会の持ち方でいいと思う。例えば本会議を開いての付託案件とか議案については、質疑、討論、採決ときちんと踏むべきだが、通常の前回の定例会前の施策の説明とか今後の行政運営などの委員会ごとの提案について、本当にこれが質疑なのかという質疑もあるし、質疑のような意見もあるし。私は現時点では従前どおりの常任委員会の運営でいいと思う。その中で聞き取りをし、すべて情報をいただき、行政側と言葉を交わすことで行政も議会の考え方の目ぼしもつけられ、それなりの数字も変わってくると思

		う。皆の意見もあると思うが、最終的な結論をきょう出すことはできない。現時点では従前どおりの対応をすべきだと思っている。
	田中委員長	住民のためという思いでしているのは重々分かっているが、事前審査にあたるのではないか、解説書にも書いてあると突きつけられた時にどのように説得できるかという話だ。「私はいいと思っている。」では説明責任を果たしたことになる。そのことを私はこの前から言っている。
	杉村委員	各委員の発言に対して委員長がやり取りする形はあまりいいことではないと思うので、各委員につらつらと述べてもらい、それに対して委員長が発言するのがいいと思う。以前から申し上げているが、質疑をしない説明をしっかりとってもらうという会議の開催は、議員各自の意見を言えないのであまり意味がないと思う。非常にフラストレーションがたまる会議になり、仮に傍聴者があったとしてもどのような位置づけの会議なのかととられると思う。現在の状況は、当然に事前審査だという認識だ。なぜ事前審査かという、議会に上程した時点ではすでに議会と執行部との話がちゃんちゃんとできていて、町民に公開されている中では何が議論されているか分からない状況になってしまっているからでそれはよくないという認識だ。話ができていること自体がよくないと思う。本来の議会に上程した後の委員会なり全協なりがベストだと思うが、各委員会や全協の資料は議員と町民が情報を得る権利は全く同じだと思っているので、次善の策として委員会や全協の資料が議員に配布された時点で、町民にも情報開示請求することなく見たい人は見えるような状況にしたうえで、従来通りの会議の進め方もありではないかとの意見も少しは持っている。ただ、本来は議会に上程してからの委員会等の開催が筋だということを申し上げておく。以上だ。
	田中委員長	私の意見を言うが、常任委員会を公開したらいいというものではないと思っている。本議会をどう位置づけるかという話だ。議案の全部が上程後に委員会に付託されるわけではない。3月議会以外ではどれも付託されない。本日決着したかったが、もう少し異議があるので無理押しはしないことにする。時間が12時に迫ってきたので…。
	足立議長	正論が出てきたら正論にせざるを得ない。色々な意見があるだろうがもう少し時間をかけてまとめてくれ。これが正しいやり方だと言ったらそれをせざるを得ない。それ以外のことはやめてくれと私は言わざるを得ないようになる。その辺もきちんと考えて次回はお願います。
	田中委員長	これまでの関係資料に改めて目を通していただいて、とにかく規定があるものもあるし、直接の規定はなくても法律の規定を基にした趣旨の理解に基づいて書かれた解説もあるわ

		<p>けで、それに応じて我々は動くしかないと思う。やはりそこに根拠をおいた説明でないとおかしくなるので、そういうことを踏まえてもう一度改めて見ていただきたい。少し異議があるので本日はこれで終わる。先ほど新しい提案を試みたいと言ったが、この問題については、これまで配布した会津若松市や葉山市の資料の該当する箇所をそのような視点で見たい。ルール化するという中で考えたこともないしやろうとしたことがないので、そのようなことについても議論していきたい。参考になる資料も探して提示したいと思う。これも議論の一つとして頭の中に置いといていただきたいと思う。</p>
	澤委員	<p>簡単に終わる。今までは山梨学院大学の江藤教授の議論ばかりできているが、先ほど見ていたら明治大学政治経済学部講師 廣瀬和彦氏の議題「議員報酬の決め方間違っていますか。」の中の議論が載っている。江藤教授の考え方にずっと従ってきたが、別の方の理論もあるのでそちらも研究してみるのがよいのではないかと思う。色々な考え方を知らるために廣瀬先生の資料が知りたいと思う。</p>
	田中委員長	<p>正副自治会長会の時にも発言があったが、議員報酬は時間では決められない、中身だと。成果に応じてするという意見もある。ただ、現実にはそれで判定できるのかという問題もある。</p>
	足立議長	<p>きょうはもうやめよう。</p>
	田中委員長	<p>資料を探してみる。</p>
閉会	田中委員長	<p>以上で、特別委員会を閉会する。 *起立、礼 12時03分 閉会</p>

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する

議会活動の在り方検討特別委員会
委員長